

日本語談話における否定応答詞「いや」の機能 —CEJC モニター版に基づく「いや」系応答詞の使用実態—

軽部恭子

麗澤大学大学院 言語教育研究科

a18010k@reitaku.jp

1. はじめに

日本語教育において否定応答詞「いいえ」は初期に導入される語彙、用法であるが、日本語日常会話においては、「いいえ」を耳にする機会は少なく、これに替わり「いや」や「いえ」等の使用が多い印象がある。しかし、具体的かつ客観的にどのようなタイミングでこれらの応答詞を使えば適切なものか、といった点について、明確な説明の根拠になるような使用実態の調査は充分におこなわれていない。また、これらの表現の使い分けを学習者に説明する際も母語話者の直観による主観的な説明や例示に留まることが多いのが現状である。

本研究では、『日本語日常会話コーパス』(Corpus of Everyday Japanese Conversation, 以下CEJC) モニター版の2人会話の調査を通じ、日本語会話における否定応答詞「いや」の使用の実態を調査する。「いや」という応答詞が否定の機能を果たす際のパターン及び否定以外の機能を明らかにする。

2. 先行研究

2-1. 否定応答の研究

サフト・大原(1999)は、日本語の話者が実際の談話で使用する否定的返答の仕方と外国語としての日本語教育で示される否定的返答の仕方に隔たりがあることを指摘し、日本語学の分野でも外国語としての日本語教育でも談話における否定行為の研究がほとんどなされていない点を指摘している。

日本語における否定応答詞には「いいえ」の他に「いえ」「いや」「うん」等がある。これらの機能を分類した研究に奥津(1989)があり本研究でもコーパス内で出現した応答詞の分類の参考にする。

2-2. 否定応答詞「いや」に関する先行研究

2-1の研究では「いや」は「いいえ」系の否定応答詞の一つとして論じられているが、山根(2003)はこれを別の形式として捉える。公演の談話、対話、電話の文字化資料から「いや(あ)」「いやいや(あ)」「いやいやいや」と前発話との関係を、話者交代の有無と関連させながら、これらを分類した。山根(2003)によれば、否定の言語表現「いいえ」「いえ」「いや」の中では「いや」が一番意味用法が広く、頻度も高い(p.122)。また、および「いや」の用法は、(1)前出の語や発話に対して否定の意を表す「単純否定」、(2)相手への配慮から、感謝・謝罪表現やほめ言葉に対して否定する「気遣い否定」、(3)文脈から否定のニュアンスが類推される「シグナル否定」の3種に大別できる(p.121)とした。

富樫(2006)もまた「いいえ」「いえ」「いや」をそれぞれ別の形式として捉えている。「いや」の本質的機能は「提示された情報の整合性計算の結果、情報そのもの、あるいは情報提示行為に対して不整合となったことの標示」にあると述べている(p.39)。また、「いや」の発話が情報そのもの、情報行為のどちらの側面を否定しているかは、場面ごとの解釈が必要としながらも、「いいえ」や「いえ」よりも使用範囲が広い、「いや」の語感の持つ威圧的とも言える強い否定のニュアンスから、「いや」のほうが否定の度合いが高いと論じている。富樫(2006)の分析は内省データによるもので、十分な量の実データによる検証が必要である。山根(2003)は「いや」を「いいえ」のヴァリエーションとしてではなく別の否定応答表現として捉え、話者の心情を鑑み機能の分析を試みており、本研究においても「いや」を一つの表現として取り扱うものとする。

3. 研究方法

CEJC（小磯他 2019）は従来の話し言葉コーパスに比べ、より自然かつさまざまなタイプの日常会話 200 時間をバランス良く収録した大規模なコーパスとして構築がすすめられており、本研究で使用するモニター版コーパスには 50 時間分のデータ（126 会話、116 セッション、609,327 短単位（語数））が含まれている。

20 歳代から 60 歳以上の 5 世代の男女、各 4 名ずつの協力者の日常会話を約 15 時間収録したものから 4~5 時間を選定し、合計で約 180 時間の個人密着法によるコーパスと、それでは収録の難しい接客場面や職場の会話等を補填するための約 20 時間の特定場面法によるものと、合わせて 200 時間のデータで構成される予定である。

本研究では、モニター版データの中から品詞が感動詞で、かつ語彙素が「いや」の表現が使用される会話を対象に、コーパス検索アプリケーション『中納言』および全文検索システム『ひまわり』を使用し用例を抽出した。「いや」を語彙素とする各形式について、頻度を整理するとともに、応答詞の前後の文脈を分析し出現パターンを分類し、その機能を検討した。これにより「いいえ」が日常会話において少なく、否定として用いられることが稀であるという先行研究の指摘を確認するとともに、2 人会話を対象に「いや」の後に発話者が発話ターンを得ることが多いことを確認、ターン取りマーカーとしての機能について検討を行った。

4. 「いや」の使用実態に関する調査

4-1. CEJC における「いや」「いえ」「いいえ」の出現状況

CEJC において「いや」を語彙素とする書字形は「いや」「や」「いやー」「やー」「いやっ」「いやー」「やーん」「いやーん」等である。『中納言』を用い抽出できた「いや」系応答詞の出現頻度を表1にまとめる。

CEJC においても、日常会話における「いいえ」の出現は少なく、また否定の応答として用いられるケースが稀であった。奥津（1989）を支持する結果が得られたことになる。

表1 用例抽出数

	抽出された用例数	問いへの応答数
いいえ	14	0
いえ	20	2
いえいえ	46	3
いや系	2152	未調査

4-2. CEJC における「いや」の発話状況

CEJC には「いや」系応答詞の例が 2,152 件観察された。このうち、二人会話の用例 501 件を用いて「いや」の後文脈を観察する。

否定的な応答とすぐわかるもの、もしくは後続する「いや」を補足する根拠や理由といった発話から否定的な応答と解釈できるものは 152 件、否定的なニュアンスはあると受け取れるものの曖昧なあいづちのような用例は 41 件であった。田窪・金水（1997:265）は否定的な応答とは承認の機能に加えて、否定的な表先ぶれをしているとしている。今回 CEJC で実際に観察された「いや」系応答詞の後続文には、否定的な応答を補足する内容は半数以下（193 件、38%）であった。

表2 CEJC における応答詞「いや」の機能分類

機能	用例数
否定的応答	193
相槌、感嘆等	135
謙遜等儀礼的応答	24
話題の転換や会話のターン取り	69
自己発話否定	66
同調、肯定	11

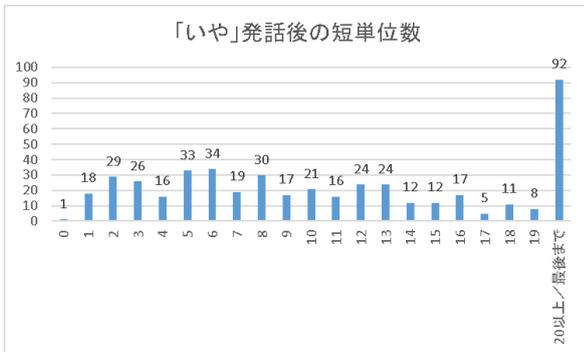
CEJC の否定応答「いや」には否定応答以外にも多くの機能があることが観察される。この結果は、山根（2003）の主張を裏づけるものである。

次に話者交替のパターンを分析する。CEJC のデータからは、「いや」の発話の後、発話者がターンを保持する傾向が見られた。その内容は「いや」という否定の発話行為を補う内容（例(1)）に限らず、否定の応答としてではなく「いや」が発話される例（用例(2)）なども見られた。

- (1) A: え#ラミレスになったから#?
 B: いや#中畑さんの時からもうすごいすごいんだけどなんだろうね#うん#
- (2) A: ほんと眠い#
 B: やー#ちょっと考えちゃうとなんか久々に考えるとあたしも頭痛くなってきた#

対象とした二人会話における「いや」の用例501件のうち、「いや」が発話される前後の文脈20語（20短単位）を取り出し、「いや」を発話した人物がどの程度自身の発話を続けているか、短単位数を数えた(表3)。

表3 「いや」の後に続く同一話者の発話の短単位数



「いや」の発話後、話者が交代した用例は36件(7.2%)あった。それ以外は話者が交代せずそのまま続くことから、「いや」発話の後、同一話者が発話をキープすることが多く、またかなり長い発話が続くことが明らかになった。観察の上限とした20短単位を越える発話が続くケースは90件で全体の18%、この他に、セッションが話者がターンを取ったまま終わったケースが2件あった。

この結果から「いや」の機能として、否定表現の他に、自分の意見を述べることを相手に伝える、もしくはこれから自分が話すということを示すターン取りの機能があるという仮説を立てることができる。

「いや」の発話後、話者が交代した用例36件でも、ターン取りの特徴である(深澤, 1997)、話者の「いや」が相手話者の発話とオーバーラップしている用例3の様なケースが36件中9件観察された。一方で「いや」の発話後も発話が続く用例で短単位数が16~19と長くなるケースでは、合

計41件の用例中20件に相手話者の「あー」「うん」「うんうん」「はい」「はいはい」「そう」等の相槌が観察された(用例4)。後者も「いや」の発話者がターンを保持していることを示すものといえる。

- (3) A: 見られたくない#汚いところ# 片付ける#
 B: いや#別|に#そんな#
- (4) A: いや#いや#んなこと思わないけど苦勞したと思ったけど苦勞してましたよ#
 B: うん#

次に、「いや」の応答機能の分類をおこなう。さきに示した否定「いや」の発話が相手からの要求によるものか、要求されていないが反応したものか、それとも自分が話したいことを話すための前触れとして発話されたものかを中島(2011)を参考に次のように分類することにした。

1. 応答要求文に対する応答：質問や確認要求に加え、依頼等の機能も含み聞き手に対して何らかの応答または反応を求める内容の先行文に対する応答。
2. 応答非要求文に対する応答：先行文は応答を要求しない叙述文等であるが、それに対して相槌を打ったり、謙遜等の儀礼的な応答がとられたもの。
3. 非応答表現：文頭に使われる感嘆の「いや」等、応答に対する先行文がないもの。自己発話否定や先行文があってもそれを考慮しない内容の応答もこれに含まれる。

この分類に従い、「いや」に後続する短単位数が1~3の用例を合計した73件と、短単位数13~19の89件、短単位数20件以上および会話の最後まで話した用例92件の3つのグループについて、応答機能ごとに分類した。次の表はその結果である。

表4-1 短単位数1, 2, 3の用例分類

	先行発話タイプ			合計用例数
	応答要求表現	応答非要求表現	非応答表現	
短単位数1,2,3	17	34	22	73
	23%	47%	30%	100%

表4-2 短単位数13, 14, 15, 16, 17, 18, 19の用例分類

	先行発話タイプ			合計用例数
	応答要求表現	応答非要求表現	非応答表現	
短単位数 13-19	24 27%	31 35%	34 38%	89 100%

表4-3 短単位数20以上等の用例分類

	先行発話タイプ			合計用例数
	応答要求表現	応答非要求表現	非応答表現	
短単位数 20以上等	19 21%	22 24%	51 55%	92 100%

「いや」の後の後続短単位の長さとは正の関係があり、発話が長くなると非応答表現が増えることがわかる。一方、応答非要求表現は負の関係であり、応答要求表現の比率はあまり変化していない。

最後に「いや」の談話展開について述べる。「いや」で発話のターンをとるという特徴の他、発話のターンをキープした状態で「いや」を発話し、自己発話否定や自己発話に対する相槌をおりまぜながら会話のターンを長くキープすることに用いられるケースが多く観察された。この談話展開は「いや」の後のターンが長くなることに寄与していると考えられる。以下にいくつか典型的なパターンを示す。

ケース1: 相手の話に合わせてから自分の話を始める

例) A: うん#へー#

B: そうそうそうどうなんだろうね#いや#
あの名刺ももらったからさあのライターさんとあえず知り合いを増やしたいなと思ってさあーま確かにねうーん
そうなんだなイラストレーターさんはまあイラスト見たらわかるけど#

ケース2: 自分の発話ターン中に自分で相槌を入れる

例) A: (略)難しそう#

B: いや#もうねそれちょっとお願いしてる時間が微妙なのとんと#いや#
そのサンプルの時にゆったのがちやんとできてなかったから厳しいんじゃないかなと思って#

ケース3: 自己発話否定 (引用)

例) A: なんかね変に変わるとか言って変にすごいなんかじゃあ案内しますねとかってゆわれていやもうあたしたち見に来てるシからわかっているのと思いつつ#

B: うん#

5. 終わりに

本研究では、CEJCを用いて否定の応答詞の使用実態を調査し、「いいえ」が標準的と考えられることが多いが、日常会話においては「いや」が最も多く使われることを確認した。「いや」という応答詞が否定の機能を果たす際、話者に対して前文脈に何かしらの応答要求があることが明らかになった。

さらに、応答詞「いや」に話者が会話のターンをとる・維持するということを意思表示する、という談話的、語用論的機能があることを示し、CEJCのデータから具体的な事例を論じた。

今後は3人以上の他人数会話での「いや」の機能を調査し「いや」の全体像を明らかにする他、「いや」と異なる機能があると考えられる「いやいや」の機能についても調査を行う。

参考文献

- 奥津敬一郎 (1989) 「応答詞『はい』と『いいえ』の機能」『日本語学』8, No. 8, pp. 4-14, 明治書院
- 森山卓郎 (1989) 「応答と談話管理システム」『阪大日本語研究』1, pp. 63-88, 大阪大学文学部
- 田窪行則・金水敏 (1997) 「応答詞・感動詞の談話的機能」, 音声文法研究会編『文法と音声』くろしお出版, pp. 257-279,
- 深澤のぞみ (1997) 「会話への積極関与としての割り込み発話-異文化間コミュニケーションの会話分析-」『社会環境研究』2, 金沢大学大学院 社会環境科学研究科, pp. 131-139
- サフト, スコット・大原由美子 (1999) 「日本語における否定的返答とコンテキストについて」『言語学と日本語教育』くろしお出版, pp. 213-227
- 山根智恵 (2003) 「談話における『いや』の用法」『岡大國文論稿』13, 岡山大学, pp. 136-145
- 富樫純一 (2006) 「否定応答表現『いえ』『いいえ』『いや』」, 編者『現代日本語文法 現象と理論のインタラクション』ひつじ書房, pp. 23-46
- 中島悦子 (2011) 『自然談話の文法-美問表現・応答詞・あいづち・フィラー・無助詞』おうふう
- 小磯花絵・天谷晴香・石本祐一・居關友里子・白田泰如・柏野和佳子・川端良子・田中弥生・伝康晴・西川賢哉 (2019) 『日本語日常会話コーパス』モニター公開版の設計と特徴『言語処理学会第25回年次大会発表論文集』pp. 367-370